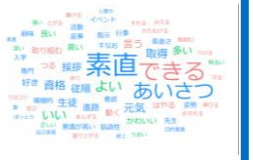
【教師がつながる】 学校のありたい姿を描き、目標を明確化する　～組織づくりの工夫～

【仙台市立仙台工業高等学校】

価値観を共有し、学校のマスタープランを教員全員で作るワークショップ

テーマ①　学校の「現状を把握」する



成果：活動①生徒の特長や強みを分析

（活動内容）
①生徒の特長や強み、課題や弱みを話し合う
②学校の特長や強み、課題や弱みを話し合う
③これからの学校に必要なことを提案する
④感想の共有

（教師のコメント）
・普段、意見交換をする機会の少ない先生方と話せたこと、他の先生方の思いを知ることができた。
・強みと弱みを共有するとともに、教員同士が同じ方向を向いていることが確認できた。
・本当のチーム仙台工業を作るきっかけになってほしい。

テーマ②　ありたい姿・理想像を「教員みんなで描く」

目標：「生徒が誇りを持てる学校」
～選ばれる学校づくりを目指して～
A：教員が学ぶ・学びあう仕組み
B：学科間の壁を越えた学び
C：地域・企業との強固な結びつき
D：学習環境と校風の改善

成果：議論する項目を絞り込むことができた

（活動内容）
①グランドデザイン案の確認
②目指すことの案を自分事として考え、検討する
③目指すことの解像度を高める

（教師のコメント）
・工業科教員と普通科教員のTTの授業が展開できるのでは。
・教員がインターンシップに行ける体制ができるとよい（研修体制の整備）。
・校訓との違いや関連性は？作って放置？（本気度への疑念）。

テーマ③　ありたい姿の実現に「必要な事」を考える

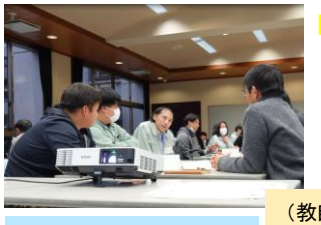
なぜこのような取り組みをしているか？（確認）
目的：選ばれる学校づくりのため（魅力ある学校づくり）
【まず、できそうなこと】
1．働きやすい学校組織づくり（最優先事項）
分掌業務・行事の精選　業務平準化　座席配置替え　カフェコーナー
2．A：教員同士が学び合える仕組みづくり
教員研修計画の明確化　次年度対策の時間確保
3．B：学科の壁を越えた学び
合同発表会　学科合同の課題研究

成果：自分事として捉え考える教員が増加した

（活動内容）
①対話の経験を重ね、解釈のずれを確認する
②外部事例を基に、課題解決のアイデアを出す
③教員同士が学科を超えた協働の可能性を探る

（教師のコメント）
・「不必要なことはやめる」という信念のもと、仕事を減らす委員会を作ってはどうか。
・授業をお互いに見て学ぶ習慣が構築できればいい。
・全学科で合同の発表会を行い、学校行事の中心にしたら面白い。

テーマ④　「やるやらない」の判断と「どうすればできる」のか工夫を募り、「やめる」ことも考える



【まず、できそうなこととの関り】
1．働きやすい学校組織づくり（最優先事項）
a．構造的な業務負担と不公平感
b．組織内連携と危機意識の分断
2．A：教員同士が学び合える仕組みづくり
3．B：学科の壁を越えた学び
＋
4．広報（SNS、HP）の強化
5．情報科を軌道にのせる ⇔ コンソーシアム？

（活動内容）
①学校組織づくりについて
②教員研修の仕組みづくりについて
③全校での課題研究・インターンシップ報告会
④広報の強化

（教師のコメント）
・鉄は熱いうちに打て。直ぐにできることは、やりましょう。
・ディスカッションする場を多くしていくことが大切だと思いました。
・先生が楽しめば生徒も楽しむを実現していく具体策が出しやすい環境になれるのではないかと少し感じた。

教員一人ひとりが、よりよい組織の在り方について考える場をつくる

【ワークショップの成果】

・5学科の職員全員によるグループワークを通じて、回を重ねるごとに考えが明確になり、魅力ある学校とはどのような組織なのかについて、自分事として考えることができた。
・現状把握 → ありたい姿を描く → 実現に必要なことを考える → 具体的な方法を提案する、という流れに沿って議論を進めることができた。
・組織に対する思いについて、ベテラン・若手・教科を問わず、自由に意見を言える環境づくりの必要性を共有することができた。
・生徒の強みと弱みを分析して教員間で共有するとともに、教科横断による授業づくりの可能性を模索することができた。
・「やめること」について、今後各部・分掌で検討する。

ーワークショップをする中で組織の課題も明確にー

A. 構造的な業務負担と不公平感
・担当者や特定の教員に業務が集中し、ワンオペで飽和状態
・「やることが増える」ことへの懸念
・新しい先生に仕事が偏る
・業務平準化と負担軽減が急務
・マイスター・ハイスクールが業務負担になっており、校内組織も不完全な状態で狙いが不明確なまま事業が進行している

B. 組織内連携と危機意識の分断
・動く人が限られている
・先生方がそれぞれ何をしているのか理解できていない
・他科との連携不足
・学校全体の一丸となった協力体制の欠如

C. 情報科確立と広報の喫緊性
・情報科の確立が最重要であり、他の学科は軌道に乗っている
・広報（SNS、HP）の強化は必須。他校の事例についても参考にすべき

この活動から生まれた新たな方向性

●学科の壁を越えた学び
・合同課題研究発表会の実施

●教職員同士が学びあえる仕組づくり
・研修の時間を捻出
・各年齢層の教員の研究授業を開催

●広報の強化
・情報発信の仕方をHP委員会（広報委員会）を中心に明確にする
・中学生向けとして、生徒目線での発信の仕方も考慮（生徒会や広報委員会等を活用）